

特定漁港漁場整備事業計画書

1 目的

目 的

（1）地域の特徴

本地区は長崎県対馬市の中央部に位置し、浅茅湾に面している。漁場は対馬海峡西水道側に面し対馬暖流と沿岸水が混合し、好漁場を形成している。海底地形は急深で、海谷、海盆が多く沿岸地先一帯には磯瀬が散在しており、変化に富んだリアス式海岸の入り江を利用してタイやハマチ等の魚類養殖及び一本釣り漁業、イカ釣り漁業、アナゴ籠漁業が営まれていたが、対馬においてクロマグロの通年養殖が可能であることが実証された平成12年からマグロ養殖へと転換を図り、現在はマグロ養殖が主力漁業として対馬を代表する漁業へと成長を遂げた。

（2）水産業の沿革と現状

本地区は、海面養殖業を主体とした漁業形態であるが、周辺海域に好漁場を有しており、一本釣り、イカ釣りも盛んである。

また属地陸揚量は672.6トン、陸揚金額18億7千1百万円（令和5年港勢調査）となっている。

海面養殖業については、主要漁種であるマグロの陸揚量は本漁港で対馬市の約3割強を占めており、隣接する尾崎漁港と共に、対馬市内の生産・養殖拠点として重要な役割を担っている。

（3）漁港漁場の沿革と役割

西海漁港は、昭和40年12月9日（農水省告示第1540号）に第1種漁港指定を受け、第5次漁港整備長期計画で改修事業として採択を受け昭和50年から着手し、平成27年度まで整備が進められてきた。また、つくり育てる事業の一環として、平成6年と9年に築いそ・アワビの放流を実施し、平成4年から15年にかけてマダイを102,900尾、平成16年・17年にヒラメを4,200尾放流した。

更に、クロマグロ養殖の所得向上と経営の安定、後継者の確保、磯焼け対策等、関係漁協及び漁業者より要望が挙がっている課題について、それを解決するため対馬地区地域水産業再生委員会を平成26年度に設立し、浜の活力再生プラン（美津島町西海地区）を策定し、それに基づき漁港漁場整備の整備を進めている。

（4）当該事業計画の目的

1. 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

本地区は、係留施設が不足しているため、陸揚げの一部を安全性が確保されていない個人所有施設で行う等、非効率で危険な作業となっているほか、干満差も大きく岸壁との高低差があるため、重労働を強いられている。加えて、生簀や漁網の修理・保管等の用地が不足するとともに、輸送用車両が入れず、フォークリフトで輸送車両まで運搬するなど非効率な状況となっている。このため、岸壁や浮棧橋等の整備により、漁業者の安全性を確保するとともに、用地、道路等の整備により労働環境の改善を図り、漁業活動の生産性向上を図る。

2. 多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

本地区は、外郭施設が不足しているため港内静穏度が悪く、台風時や冬季荒天時は他港避難を余儀なくされている。自港においても強風時に漁船が流され操船に支障が生じ、係船岸へ接触するなどしており、非常に危険な状況である。

このため、防波堤整備により、港内及び航路の静穏度向上を図り、安全な漁港利用及び作業の効率化を実現する。

2 施行に係る区域及び工事に関する事項

(1) 区域に関する事項

イ 区域名

区域名	西海地区
-----	------

ロ 所在地等

都道府県名	長崎県	関係市町村名	対馬市
地域指定	離島振興法 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法 辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律		
整備対象漁港名	西海漁港	整備対象漁場名	

西海漁港（今里地区）航空写真



撮影年月日：令和8年2月19日

西海漁港(今里地区)現況写真

台風等や荒天時には、強風の影響により港内静穏度が悪化しているため、船体の動揺が非常に激しく、係留作業や漁船の警戒監視に時間を要している。

防波堤整備により、港内静穏度を確保し、漁業活動の安全性の確保、効率化を図る。

① 港内荒天時状況



② 港内荒天時状況



令和7年3月撮影

西海漁港(今里地区)現況写真

防波堤や岸壁等が整備されてないため、台風や荒天時には船体の動揺が非常に激しく、船同士の接触が発生している。また、漁船までは安全性が確保されていない桟橋を利用しているため、危険な作業を強いられている。既設の石積護岸は脆弱であるため、安全性に問題がある。

防波堤の整備により、港内静穏度を確保するとともに、新たに護岸や桟橋を整備することで、漁業活動の安全性の確保、効率化を図る。

③ 港内荒天時状況



④ 港内荒天時状況



令和7年3月撮影

西海漁港（昼ヶ浦地区） 航空写真



撮影年月日 : 令和8年 2月19日

西海漁港(昼ヶ浦地区)現況写真

荒天時には、強風の影響により沖防波堤と陸地の間から波が侵入し、港内静穏度低下の原因となっている。
また、台風時には、影響の小さい近隣の入り江に避難を強いられており、台風襲来予定の前々日から避難を開始するため、出漁機会の低下要因となっている。

防波堤整備により、港内静穏度を確保し、漁業活動の安全性の確保、効率化を図る。

① 港内荒天時状況



② 港内荒天時状況



令和7年3月撮影

西海漁港(昼ヶ浦地区)現況写真

港内が狭いため、陸揚・準備時において休けい船舶が支障となり、着岸・離岸に時間を要している。
また、陸揚・準備岸壁を除く限られた岸壁等に係留しているため、荒天時に避難する休けい用岸壁が不足している。

防波堤・岸壁整備により、港内静穏度を確保し、漁業活動の安全性の確保、効率化を図る。

③ 港内係留状況



令和8年2月撮影

④ 港内係留状況



令和7年3月撮影

西海漁港(昼ヶ浦地区)現況写真

当港では船揚場が整備されておらず、船舶の上下架作業とマグロ養殖の生け簀の引揚解体作業は他港の民間施設で行っているため、移動に要する時間と費用を要している。

船揚場の整備により、運搬等に要する時間の短縮と費用削減を図る。

⑤ 船揚場整備予定箇所状況



令和5年9月撮影

⑥ 船揚場整備予定箇所状況



令和8年3月撮影

西海漁港(昼ヶ浦地区)現況写真

漁港施設用地が不足しているため、狭小な用地を利用して非効率な作業を強いられている。
また、漁網の保管場所が確保できないため、岸壁上に仮置きしている状況であり、作業効率が低下している。

用地の整備により漁業活動の効率化を図る。

⑦ マグロ養殖生け簀仮置状況



令和7年3月撮影

⑧ 漁網仮置状況



令和7年1月撮影

ニ 当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針

当該区域の水産業に係る現況、課題及び整備方針

1. 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①現況、課題

西海漁港は、長崎県対馬市の中央部に位置し、変化に富んだりアス海岸を有する浅茅湾内で天然の礁に恵まれた生産性の高い漁場を有しており、沿岸域では、一本釣りや、イカ釣り、アナゴ漁など多様な漁業が営まれ、近年では沿岸海域がマグロ稚魚の好漁場であることから、地元経営体によるマグロ養殖業への転換し、圏域はもとより対馬全体の生産・養殖拠点として重要な漁港である。

「西海漁港（今里地区）」

西海漁港今里地区は干満差が大きく、準備・陸揚げ作業が重労働となっていることに加えて陸揚の一部を安全性が確保されていない個人所有施設で行っているなど、非効率で危険な作業を強いられているため、岸壁等の確保が課題となっている。また、マグロ養殖の陸揚量増加によって、漁網や生簀等の仮置き場所や補修場所が不足しており、防波堤上への仮置きや狭小な用地での非効率な作業を強いられているため、新たな用地の確保が課題となっており、輸送用車両が入れない場所もあるため、輸送道路の整備も課題となっている。

「西海漁港（昼ヶ浦地区）」

西海漁港昼ヶ浦地区は港内が狭いため、準備・陸揚げ時において休けい船舶が支障となり、着岸や離岸時に時間を要していることに加えて、荒天時に避難する休けいの岸壁が不足しており、非効率な作業を強いられている。また、当地区では船揚場が整備されておらず、船舶の上下架作業とマグロ養殖の生け簀の引き揚げ解体作業は他港の民間施設で行っているため、移動に要する時間と民間施設の使用料などの費用を要している。その他、マグロ養殖の陸揚量増加によって、漁網や生け簀等の仮置き場所や補修場所が不足しており、岸壁上への仮置きや狭小な用地での非効率な作業を強いられているため、新たな用地の確保が課題となっている。

②整備方針

「西海漁港（今里地区）」

準備・陸揚施設の不足を解消するため、岸壁や浮棧橋、浮体式係船岸を整備することで、労働環境の安全性向上と作業の効率化を図る。併せて、準備・陸揚時間の時間短縮により、操業時間の延長が可能となることで漁獲量の増加が期待され、安定供給につながる。

また、マグロ養殖等における漁網の補修作業や保管場所の確保に対応するため、新たに用地を整備することで作業環境の改善及びコスト縮減を図る。

「西海漁港（昼ヶ浦地区）」

休けい用岸壁を整備することで、準備・陸揚げ時の着岸や離岸時の係船が円滑になり、労働環境の安全性向上と作業の効率化を図る。併せて、準備・陸揚時間の時間短縮により、操業時間の延長が可能となることで漁獲量の増加が期待され、安定供給につながる。

また、マグロ養殖等における漁網の補修作業や保管場所の確保に対応するため、新たに用地を整備することで作業環境の改善及びコスト縮減を図る。

2. 多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①現況、課題

「西海漁港（今里地区）」

西海漁港今里地区は、台風時や冬季荒天時には所要の港内静穏度が確保されていないため、船体の動揺が激しく、係留作業や漁船の警戒監視に時間を要している。また、岸壁が整備されていないため、既設の護岸と漁船との間に昇降用の棧橋と筏を築造して係船を行っている現状であり、港内静穏度悪化時には漁船同士だけでなく筏との接触も懸念されており、漁船の保全が課題となっている。

「西海漁港（昼ヶ浦地区）」

西海漁港昼ヶ浦地区は、台風時や冬季荒天時には所要の港内静穏度が確保されていないため、影響の小さい近隣の入り江に港外避難を余儀なくされており、避難作業や漁船の警戒監視に時間を要し、出漁機会の低下が課題となっている。

②整備方針

「西海漁港（今里地区）」

防波堤の新設・改良により港内静穏度を確保し、漁船の移動コストや避難監視コストの縮減及び安全係留の確保と漁船保全を図る。

また、岸壁等の整備により係船が可能となることで、これまでに要していた栈橋や筏の制作費、修理費のコスト縮減を図る。併せて航路の静穏度向上により出漁機会が増加し、水産物の漁獲機会の拡大や地区の基幹漁業であるマグロ養殖業のコスト削減により経営の安定、しいては雇用の維持並びに新規雇用の創出が期待され、水産業の振興を核とした良好な生活環境の形成が図られる。

「西海漁港（昼ヶ浦地区）」

荒天時の港外避難を解消するため、防波堤の新設により自港避難が可能となり、移動コストや避難漁船監視コストの縮減及び安全係留の確保と漁船保全を図る。

また、併せて航路の静穏度向上により出漁機会が増加し、水産物の漁獲機会の拡大や地区の基幹漁業であるマグロ養殖業のコスト削減により経営の安定、しいては雇用の維持並びに新規雇用の創出が期待され、水産業の振興を核とした良好な生活環境の形成が図られる。

ホ 整備対象漁港及び整備対象漁場の現況及び将来見通し

(現況)

(令和5年漁港港勢調査)

整備対象 漁港名	属地陸揚量 660 トン	属地陸揚金額 1,871 百万円	属人漁獲量 660 トン
	登録漁船隻数 119 隻	利用漁船隻数 225 隻	漁船以外利用船舶隻数 0 隻
西海漁港	主な漁業種類 養殖業、延縄、一本釣り		主な魚類 マグロ、イカ、ブリ
整備対象 漁場全体	受益戸数 (受益者数)		登録漁船隻数 漁港名又は港湾名

(将来見通し)

(目標年：令和17年)

整備対象 漁港名	属地陸揚量 729 トン	属地陸揚金額 1,700 百万円	
	登録漁船隻数 119 隻	利用漁船隻数 225 隻	漁船以外利用船舶隻数 0 隻
整備対象 漁場全体	受益戸数 (受益者数)		登録漁船隻数 漁港名又は港湾名

将来見通しの考え方

〈属地陸揚量〉

平成29年から令和5年の港勢調査のデータを基にした。

過去7ヶ年の動向は順調に増加傾向にあるが、直近である令和5年の陸揚量は、新型コロナ禍においてマグロ養殖の稚魚漁獲量が落ち込んだ影響を受けて減少している。

漁港施設の完成により、マグロ養殖の持続的な安定供給が可能となるため、上昇傾向である直近3ヶ年の平均値である729tの陸揚量を見込む。

〈属地陸揚金額〉

平成29年から令和5年の港勢調査のデータを基にした。

過去7ヶ年の動向は、新型コロナ禍において影響を受けた年もあるが、総じて順調に増加傾向にある。漁港施設の完成により、マグロ養殖の持続的な安定供給が可能となるため、上昇傾向である直近3ヶ年の平均値である1,700百万円の陸揚金額を見込む。

〈登録漁船隻数〉

平成29年から令和5年の港勢調査のデータを基にした。

過去7ヶ年の動向は、高齢者の廃業による減少があるものの直近3ヶ年では変動が少なく、また、マグロ養殖の主力船である5t以上の漁船は変動なく推移しているため、R5の横ばいとし、119隻とする。

〈利用漁船隻数〉

平成29年から令和5年の港勢調査のデータを基にした。

過去7ヶ年の動向は、小型船の廃業による減少があるものの、マグロ養殖の主力船である5t以上の漁船は変動なく推移しているため、R5の横ばいとし、225隻とする。

(2) 工事に関する事項

イ 主要施設の種類の種類、規模及び配置等

(漁港施設)

都道府県名	整備対象漁港	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者
長崎県	西海漁港 (今里地区)	1種	離島	対馬市	対馬市
計画施設	計画工事種目	単位	計画数量		備考
外郭施設	西防波堤	m	40		1 新設
	東防波堤 (改良)	m	40		2 H4.3.31 防風柵
	A護岸 (改良)	m	12		3 H4.3.31 防風柵
	B護岸	m	17		4 新設
	C護岸	m	14		5 新設
係留施設	－3m岸壁	m	230		6 新設
	物揚場	m	100		7 新設
	浮棧橋	基	1		8 新設
	－3m岸壁 (改良)	m	20		9 H8.3.31 浮体式係船岸
輸送施設	道路	m	297		10 新設
漁港施設用地	用地	m ²	1,630		11 新設

都道府県名	整備対象漁港	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者
長崎県	西海漁港 (昼ヶ浦地区)	1種	離島	対馬市	対馬市
計画施設	計画工事種目	単位	計画数量		備考
外郭施設	沖防波堤	m	30		1 新設
係留施設	－3m岸壁	m	170		2 新設
	船揚場	m	20		3 新設
輸送施設	道路	m	170		4 新設
漁港施設用地	用地	m ²	2,600		5 新設

ロ 工事の着手及び完了の予定時期

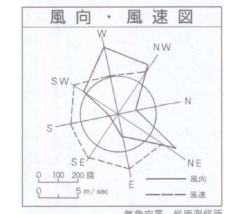
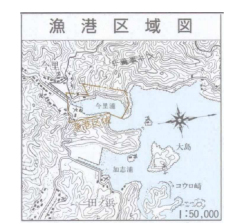
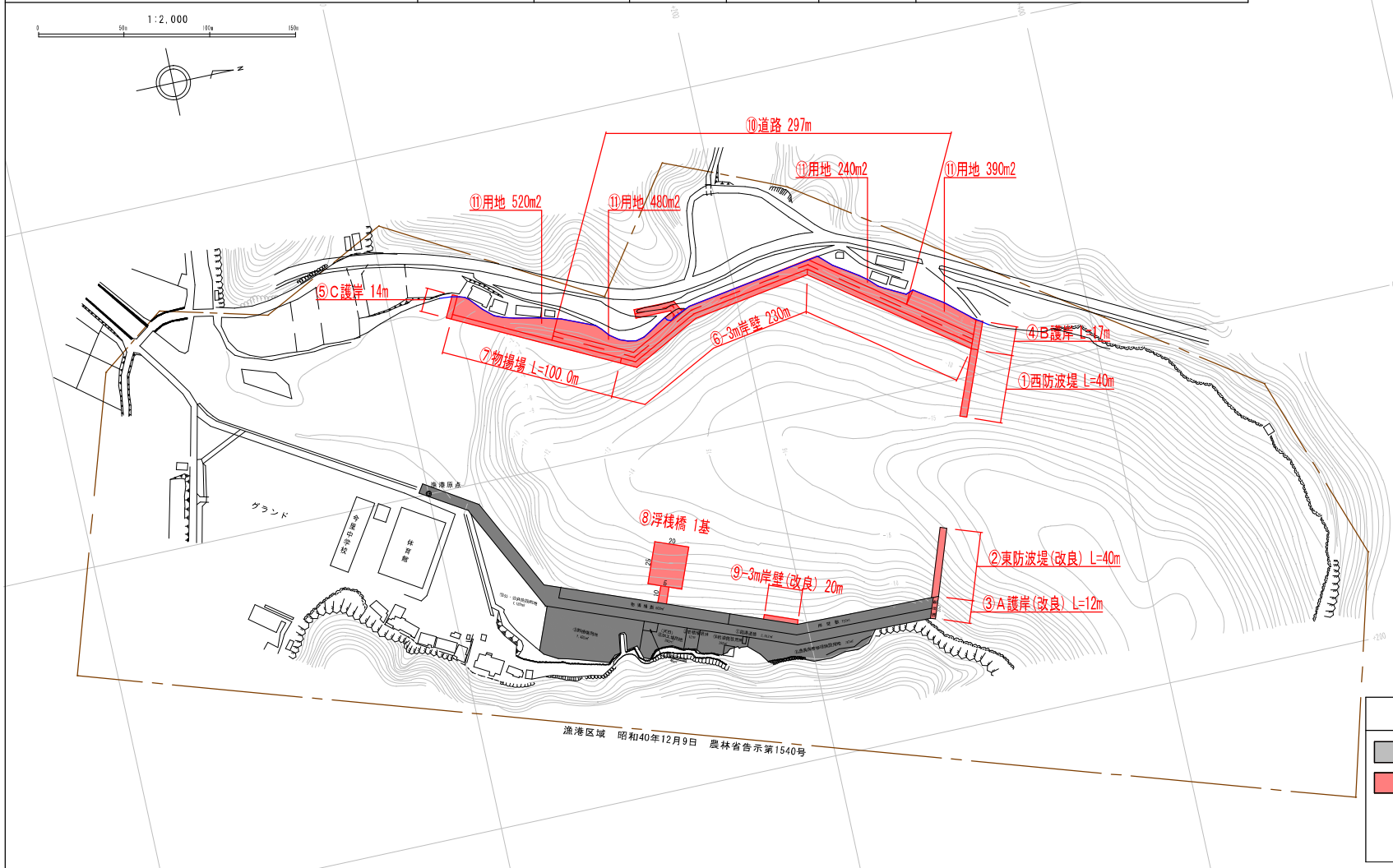
着手予定年度	令和8年度	完了予定年度	令和14年度
--------	-------	--------	--------

ハ 計画平面図

計画平面図	別紙のとおり

西海地区特定漁港漁場整備事業
計画平面図(西海漁港 今里地区)

漁港番号	種別	所管	事業主体	管理者	施行場所
4510330	第1種	離島	対馬市	対馬市	長崎県対馬市美津島町今里



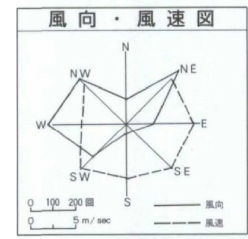
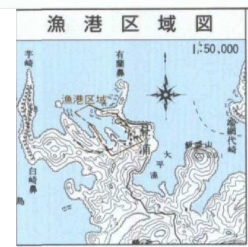
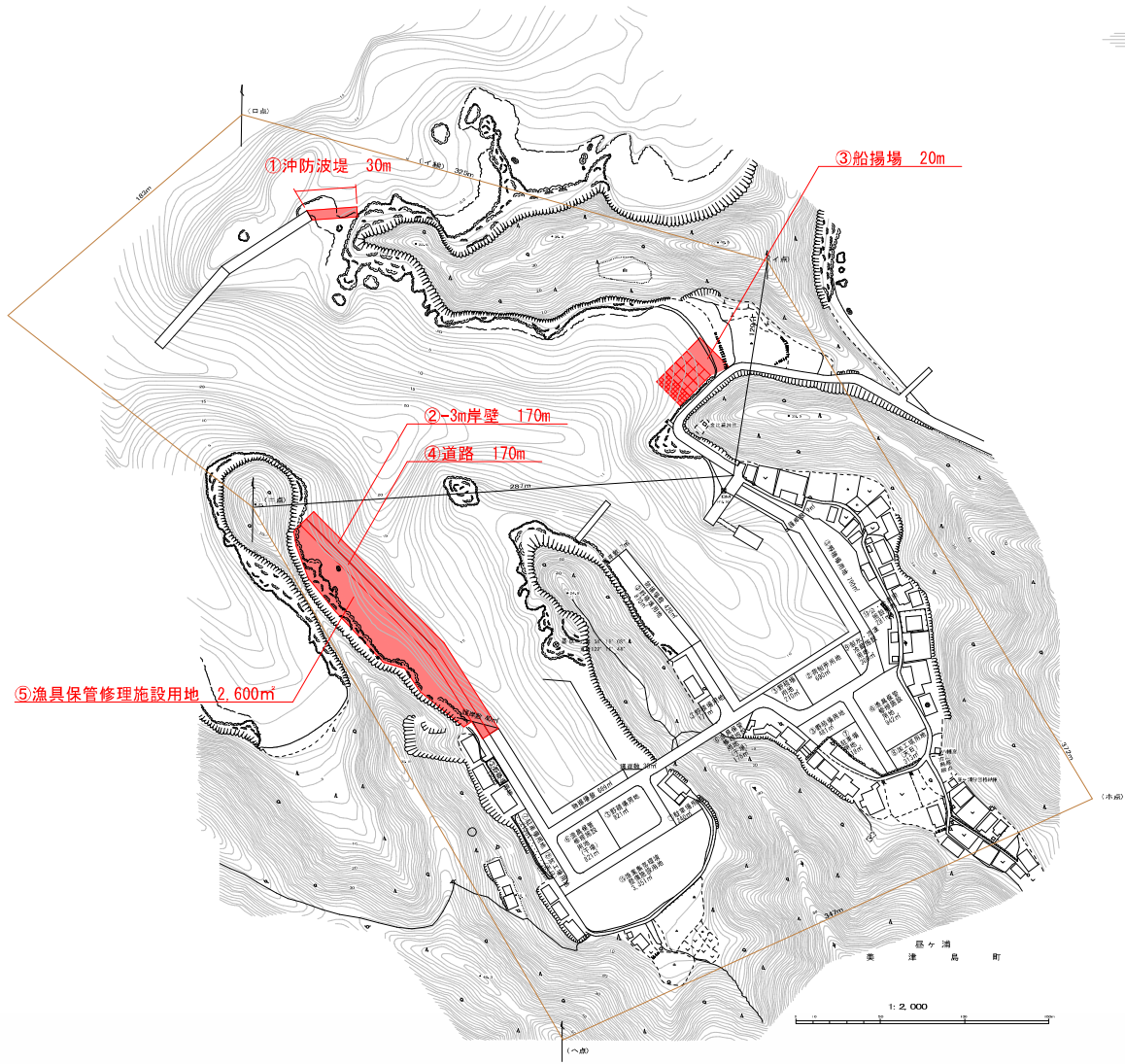
潮位図

H.H.W.L	+2.80
H.W.L	+2.60
M.W.L	+1.34
T.P	+0.88
L.W.L	±0.00
D.L	±0.00

凡例

■	令和7年度迄
■	当該基本計画

西海地区特定漁港漁場整備事業 計画平面図(西海漁港 昼ヶ浦地区)	漁港番号	種別	所管	事業主体	管理者	施行場所
	4510330	第1種	離島	対馬市	対馬市	長崎県対馬市美津島町昼ヶ浦



H.H.W.L	+2.80
H.W.L	+2.60
M.W.L	+1.34
T.P	+0.88
L.W.L	±0.00
D.L	±0.00

■ (Grey)	令和7年度迄
■ (Red)	当該基本計画

3 事業費に関する事項

計画事業費	3,400 (百万円)
-------	-------------

4 効果に関する事項

1. 主要な水産施策別の事業効果	
	<ul style="list-style-type: none">・生産力の向上と力強い産地づくり <p>強風時の漁船の係留や操船に際しては風当たりが強く、漁船同士の接触破損等の恐れがある。また近年、大型化する台風時の激浪により安全な係船ができず、港外へ避難している状況であるため、外郭施設を整備することにより、漁船の耐用年数延長及び他港避難解消等が可能となる。</p> <p>用地整備により、養殖網等の補修作業が効率的に行われるようになり、漁業者の高齢化対策、労働時間の短縮、労働環境改善が図られる。 浮棧橋の整備により、干満差の解消による作業の安全性を確保する。 また、道路整備により、輸送車両との連携が円滑になることで、作業の効率化が図られる。</p>
2. 地域に与える影響	
	<p>施設整備により、漁船の円滑な岸壁利用と荷捌、搬出等の作業の効率化を図り、後継者及び高齢者がいきいきと就業できる場を創出し定住促進の支援に寄与する。</p>

3. 費用対効果分析結果			
社会的割引率	4.0%	投資期間	令和8年～令和14年
現在価値化の基準年度	令和7年度	施設の耐用年数	50年
貨幣化による分析結果			
貨幣化した効果項目	①水産物生産コストの削減効果 ②漁業就業者の労働環境改善効果		
総便益額 B	3,204 百万円		
総費用額 C	2,850 百万円		
費用便益比率 (B/C)	1.12		
参考	純現在価値 : (B - C)	354 百万円	
	内部収益率 : IRR	4.13 %	
4. 事業の定量的・定性的効果 (貨幣化が困難な効果)			
<p>生命・財産の保全効果：防波堤の整備は港内静穏度向上のみならず航路保全にも効果がある。また、台風時等における漁民の不安（ストレス）の軽減を図る。</p>			

5 環境との調和に関する事項

環境との調和に関する事項	<p>本地区は対馬浅茅湾に面し、壱岐・対馬国定公園区域に指定された周辺の沿岸地先一帯には磯瀬が散在し、変化に富んだ好漁場を形成している。また、地先に広がっていた豊かな藻場は磯焼けが徐々に進行しているため、食害生物（ガンガゼ）の除去等を計画的に実施する。</p> <p>船舶の定期メンテナンスやマグロ養殖の生け簀の上下架作業のために計画している船揚場は、配置計画について磯場や藻場に影響がないように周辺海域の調査を実施し、悪影響のないように配慮する計画である。</p>
--------------	---

6 他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設名	施設規模・内容	本事業との関連性	備考
水産物鮮度保持施設	鉄骨造3階建 製氷 7 t/日 貯氷 15 t	漁獲物の鮮度保持用氷の安定供給が可能	事業主体： 美津島町西海漁業 協同組合 整備年度：平成28年度
水産物鮮度保持施設	冷凍庫	養殖用餌の冷凍保存が可能	事業主体： 美津島町西海漁業 協同組合 整備年度：平成30年度
給油補給施設	カード式自動給油施設 20KL	漁業活動に必要な燃料の安定供給が可能	事業主体： 美津島町西海漁業 協同組合 整備年度：令和5年度

(別紙) 各施設事業費根拠

西海漁港（今里地区）

計画施設	計画工事種目	計画数量	単価(千円)	事業費(千円)
外郭施設	西防波堤	40 m ×	5,500 =	220,000
	東防波堤（改良）	40 m ×	1,600 =	64,000
	A護岸（改良）	12 m ×	2,000 =	24,000
	B護岸	17 m ×	2,590 =	44,000
	C護岸	14 m ×	2,570 =	36,000
係留施設	- 3 m岸壁	230 m ×	3,410 =	784,000
	物揚場	100 m ×	3,600 =	360,000
	浮棧橋	1 基 ×	300,000 =	300,000
	- 3 m岸壁（改良）	20 m ×	2,400 =	48,000
輸送施設	道路	297 m ×	202 =	60,000
漁港施設用地	用地	1,630 m ² ×	98.0 =	160,000
計				2,100,000

西海漁港（昼ヶ浦地区）

計画施設	計画工事種目	計画数量	単価(千円)	事業費(千円)
外郭施設	沖防波堤	30 m ×	4,500 =	135,000
係留施設	- 3 m岸壁	170 m ×	3,600 =	612,000
	船揚場	20 m ×	11,250 =	225,000
輸送施設	道路	170 m ×	400 =	68,000
漁港施設用地	用地	2,600 m ² ×	100 =	260,000
計				1,300,000

合計	3,400,000
----	-----------